令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【七里小学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎的、基本的知識の定着 <指導上の課題> ・知識の確実な習得を図る授業	⇒	・朝自習や家庭学習における学習プリントの反復を行う。また週や単元の終わり等のタイミングで小テストを行い、児童自身に実態把握をさせ、次へのステップとさせる。 ・既習事項と結びつけた授業展開を行い、既習を確認する機会を多くもち、繰り返し学習のパターン化をする。
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・根拠となる資料と自分の考えとの結び付け <指導上の課題> ・思考する時間の確保 ・意図的な考えのアウトプット	⇒	・根拠をもとに考えることを繰り返し、文章、図、グラフなどの資料を正確に読み取れるよう、授業中に多くそれらを取り扱い、読み取る力を向上させる。 ・児童がじっくり思考できる時間を確保する。また、読み取った資料を要約し説明できるよう、「つまりそれは？」と問いかけ、児童の思考を揺さぶる。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語・算数・理科のすべての教科の知識・技能の正答率が低く、国語では特に漢字の書き取り、算数では図形に対する理解度、理科では電流のつなぎ方等に関わる問題に課題が見られた。共通して言えることとして、その書き方ややり方等を一度学んだ基礎的知識が、しっかりと定着していないということがいえる。 児童質問で「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的解答が9割以上なので、常に見直し・確認することを習慣化し、知識の定着を図る指導をしていく。
思考・判断・表現	国語・算数・理科のすべての教科の思考・判断・表現の正答率が低く、国語では時間や事柄の順序を捉える問題、算数では解決に必要な情報を見出す問題、理科では解決するための観察や実験を適切に見出せるかという問題に課題が見られた。共通して言えることとして、知識を活用した上で正しい方法などを見出し、自らの考えを記述することが難しいことが考えられる。 児童質問で「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対する肯定的解答が9割以上なので、引き続き児童の意欲を損なわないようにし、適切な解答ができるよう指導していく。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・プリントや小テストの実施直後は、知識としての成果が見られたが、数日後定着していない。必要に応じて、スモールステップで学習の進度を行きつ戻りつする必要があると考える。 ・授業開始時に前時に学んだことの確認をすると、答えられる児童とそうでない児童が半々でいる。振り返りで、次時への見通しをもたせることで、意欲を高めて知識・技能の定着を図る。	・前時だけではなく、単元を通して確認を行い、さらに確認する内容をランダムにして、思考を刺激する。【2学期以降・毎時】 ・具体物や図、グラフ、または自作スライドや映像など、視覚的に印象の残りやすい授業を意識して展開する。【2学期以降・多め】
思考・判断・表現	B	・根拠をもとに考えることが苦手な児童が多く、思考が止まって記述できないままでいる児童や、取り組むことを諦めてしまっている児童が見られる。 ・長期での定着が難しい。じっくり思考する時間を確保できていない。	・幾つか選択肢やキーワードなどを与え、「自分で考えて書き出す（表現する）」ことに主体的に取り組めるようにする。【2学期以降・多め】 ・授業の進め方をマネジメントし、教師主体と児童主体のメリハリをつけて、じっくり思考できる時間を生み出す。【2学期以降・多め】

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	
思考・判断・表現	